

第5回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成26年7月24日(木) 18時00分～

登別商工会議所 会議室

- ◆出席委員：高田 明人 委員  
川田 弘教 委員  
斎藤 正史 委員  
鈴木 高士 委員  
望月 一延 委員  
守屋 聡 委員  
近井 一夫 委員  
安達 信喜 委員  
吉元 美穂 委員  
垣内 登紀子 委員  
安達 陽子 委員  
千葉 洋子 委員  
沼田 一夫 委員  
二瓶 秀幸 委員  
松山 哲男 委員  
井上 昭人 委員  
苫米地 真一 委員  
松田 毅 委員  
計18名

- ◆事務局：商工労政グループ伊東商工労政・新エネルギー主幹  
奥田主査  
竹中担当員

- ◆登別商工会議所事務局：田村事務局長

- ◆登別商工会議所中小企業相談所：荒経営指導員

- ◆議題：1. わがまちの「農業の現状」を聞いて  
2. わがまちの「農業」が抱える問題・課題  
3. わがまちの「農業」の今後のあり方

【要旨】

項目	発言者	内容
～農業の現状について～	<p>会長</p> <p>委員</p> <p>会長</p> <p>委員</p>	<p>まず、行政において農業関係の担当者である委員より、市内農業の状況について説明していただく。</p> <p>登別市は、雲が多く雨が深い地域であり、土壌は有珠山の火山灰土に覆われている為、なかなか畑作には向いていない。従って、農業は酪農を中心とした畜産経営が主体となっており、その農業の中心が札内・来馬地区である。</p> <p>登別市の農業の総生産額は、年間21億円であるが、うち酪農・畜産による生産額が約20億5千万と、ほとんどが酪農・畜産と言える。市で把握している酪農家は19戸であり、そのうち4戸が法人。この19戸は認定農家といい、地域の農業の担い手として自ら経営計画を作成しているもので、国から平成17年に認定を受けている。</p> <p>生乳については、道内ではトップクラスの品質を誇っており、登別・室蘭地域には室蘭3戸、登別11戸からなる『室蘭・登別酪農振興協議会』が切磋琢磨して質の良い牛乳を搾っている。なお、その牛乳を平成18年から学校給食に出している。</p> <p>離農した方の農地については、周辺の農家に貸与・売却する等を盛んに行われており、遊休農地はほとんどない。</p> <p>次に、市内で農業に従事する委員より、日常業務において見えてくる農業の状況を説明していただく。</p> <p>農業は家族経営で行われている業種であり、中小企業という認識は薄い。近年問題になっているのは、後継者はいるが、配偶者がいないということ。専業農家11軒のうち後継者を決めていないのが1、2軒。後継者はいるが配偶者がいないというのが3軒ほど。家族経営の為、このまま後継者がいなくなると、農家は経営ができなくなる場合がほとんどである。</p> <p>若い夫婦が2人揃っていれば貸付も楽に受けられ</p>

		<p>るが、独り身の後継者だと先細りするのではないかという判断により資金供給を受けられないことが多い。</p>
会	長	<p>では、質疑応答の時間を設ける。</p>
委	員	<p>業務にあたり、朝は何時から作業を始めるのか。朝は搾乳のローリーが来る時間が決まっており、その時間に間に合わせるため、5時半には作業を開始する。</p>
委	員	<p>収入は十分に食べていけるだけあるのか。生活する上で必要な稼ぎは十分ある。生乳を何年も搾り終え、牛を食肉用として市場に出した時にまとまったお金にはなるが、普段はお金持ちとは言えない。</p>
委	員	<p>農家は儲からない商売だが、普通の生活をしていく分には困らない業種であると感じている。</p>
委	員	<p>コストが一番かかるのはどの分野か。金額が最もかかるのは餌である。牧草以外に農耕飼料というものを食べさせているが、農耕飼料はメーカーから年間400万円分程購入している。しかし、餌を食べた事によって生乳ができるので、コストとしては痛手ではないと考えている。最もコストがかかるのは機械。メーカーがいい機械を作ったとしても、全国的に農家の数が減っており、相対的に需要に限りがあるため、機械が割高になってしまう。</p>
委	員	<p>最近乳製品の価格が高騰していて、それは品薄が原因と聞いているが、実態はどうなのか。</p>
委	員	<p>全国的に品薄状態であると推測している。</p> <p>札内のような小規模が多い地域で1軒廃業しても、乳量を地域内でカバーできる。ところが、法人として道東などで大規模に行っている農家が廃業すると、残った小規模の農家ではカバーしきれない。設備や人員の規模の面から、そう簡単に増産体制は取れないし、TPP問題などにより先行き不安定な今、皆投資を控えている。これが少し落ち着いてくれば。</p>
委	員	<p>登別の生乳の品質は、評価が高いと聞くが、生産</p>

	委員	<p>者の技術が高いということか。</p> <p>生産者の衛生管理の技術向上にある。</p> <p>かつては、西胆振近隣の農家から、のぼりべつ牛乳は品質が悪いと言われていた。牛乳の質が低下する為、登別産の牛乳を同じローリーに入れて欲しくないと言われていたそう。そんな中、生産者の代替わりを契機に、品質や衛生管理に目を配るようになった。衛生管理を満たさなければ、消費者に買っていただけないという意識が根付いたことが要因である。</p>
	委員	<p>先程、後継者はいるが配偶者がいないという話をしていたが、従業員を雇用して企業化へという観点はないのだろうか。</p>
	委員	<p>農業において企業化して事業を拡大することは難しい場合が多い。</p>
		<p>牧草の収穫時期などの繁忙期になると、残業が毎日のように続く。家族の場合は残業が続いても働いてくれるが、従業員となると難しい。従業員を雇用して法人化していくことは農業にとっても選択肢の一つで、国は推奨しているが、最終的に長期にわたって事業を継続していけるのは家族経営ではないかと思う。外国でも小さいながらも残っているのは家族経営であり、それが一番強いのかなと思う。</p> <p>法人化する場合、立ち上げたときはいいそうである。当事者同士が話し合っ合意の上でやっているものであり、その中のリーダーがリーダーシップをとっていけばうまくいく。そのリーダーが交代する時が難しい。事業を継続できなくなる原因は、そのような人間関係が多いという。</p>
<p>1. わがまちの「農業の現状」を聞いて</p> <p>2. わがまちの「農業」が抱える問題・課題</p> <p>3. わがまちの「農業」の今後のあり方</p>	会長	<p>説明を聞き、問題・課題・今後のあり方等についてグループに分かれて話し合っ合意いただき、グループごとに発表していただく。</p>
	委員	<p>Aグループでは、登別の農業は思ったよりも戸数が</p>

少ない、減少しているという意見や、市として、市民としてこの現状をそのままにしておいていいのだろうかという意見があった。農業を新規に始める場合の初期投資は、投資した費用を自分の代で返すことが困難であり、近隣での機具の貸し借りによる投資額の軽減も難しい。農業従事者を増やしてはいるが、これから法人化を進めていくとなると莫大な資金がかかる。莫大な投資というリスクを冒して農業をするというのは難しいのだろう。

また、品質のよい牛乳を多方面で消費する方法や、チーズやバター、その他乳製品への転換を考えていかなければならない。農業者は飼育が忙しく、なかなか加工者になりにくく、加工した商品を販売する場合も立地条件等のハードルが高いという中、良い解決策はないだろうか。また、観光として搾乳体験が考えられるが、これも飼育に時間を割かれる為、難しいのではないかという意見があった。

委員

Bグループでは、登別全体の経済振興をどのように図るかという視点で、農家それぞれの生産性を上げる方法として、観光などとミックスするという話があった。生産されているものを使って、発展性をどう図っていくかという話をしていた。市内で採れた牛乳のうち2トン酪農館で使っているというが、残り6トン市内で消費できないかという問題をはじめ、域内循環という言葉が今回も出てきていたが、300万人の観光客の人々にどのように消費してもらうか、地域内の日常でどうやって消費を図っていくかという話など、いかにして地域にお金を落とすことができるかという課題を、農業分野内でも解決していけないかという話をした。

委員

Cグループでは、他のグループと重複する内容もあるが、今の規模を維持していった場合、後継者問題をクリアすればこれからも継続していける安定した産業であるという印象が、実際の生産者から話を伺った感想としてあった。ただ、登別市の経済の発展として考えると、1次産業としての酪農をもっと拡

4. その他

会 長

大していけないかということが話し合いのテーマになっていた。事業規模を拡大し、量を増やしていく為に、今の家族経営を法人化するという可能性を考えていけないのか。仕入れを登別市内で確保し、付加価値のある製品を真のブランド品として出していないのか。魅力ある産業としてもっとアピールできるのではないのか。最大の基幹産業である観光とも、体験型のメニューとして連携したセールスができるのではないのか等、登別市全体で付加価値を考えていくことにより、酪農の可能性を広げられるのではないかとといった意見が挙げられた。

また、肉牛にも話は及んだが、登別のブランドとしてのアピールが足りないと考える。登別牛は、肉牛としての評価は高いが、価格が高いため市民の目に触れる機会が少なく、認知度が不足している。乳牛と同じように真のブランド化として共に考えていく機会があるといいのではないかと感じた。

本日は農業、特に酪農という点での話を伺ったが、登別市内の農業の認識を深めていただき、これからどうしたらいいのかということ、今後考えていく予定である。

今回の内容全体を通してそれぞれが感じたことを付箋に書き留めていただき、次回の開催時に提出していただきたい。

なお、次回開催は8月7日（木）を予定している。  
お疲れ様でした。